

歐洲古本屋の思出

桑木彥雄

かような題目を揚げたものの、三十年前と十年前との古い且つ狭まい見聞に止まるのであるが、一つの記録として同好の一瞥を得れば幸である。

三十年前はカイザー華やかなりし頃である。ベルリン大学の近くに Mayer und Miller という書店があり、豫ねてそこから発送する数学物理学方面の豊富な古本目録に依りて憧憬もしていたのであるから、ベルリンに着いて間もなく行つて見たが、丸善などに比べて店幅のズツ狭まいのは、凡て大がかりと思つた期待を裏切つた。然し、高い天井まで届いている本棚を、梯子を掛けて見て廻るのは愉快であつた。其頃の我国の書棚は大抵背の高さ位のものであつた。やがてマイヤー氏が、ミューラー氏か、店の主人の一人とも心易くなつたが、二十年後に尋ねたときは、大戦後同店もライプツヒのフォックと合併して漸く店を続けていた状態のようで、めつきり老人になつたその人も頻に愚痴をこぼしていた。この折の数ヶ月の伯林滞在中には、リンデン通りの Hirschwald へ専ら新本を見に出掛けた。又其折新たに知つたシャロテンブルクの Heilensberg は文科系統の古本を主としていたが、主人は舎兄(桑木巖翼)の通信でやがて余が伯林来着の筈と知り、偶ま汽車で遇つた日本人に誰彼となく余の名を呼びかけたとのこと、余も着早々に尋ねた。普通の書店と異り、アパートの二階が、佳居兼書店で、夫婦の外にタイピスト二人で事務を取つていたようであつた。主人は研究家であ

り、ビブリオグラフィ的な書籍目録を種々編纂出版した。又頗る話好きで、フランスの本屋は落丁など無頓着（？）で非科学的だとか、イギリスの本屋は本を大きく分類しているなどと云っていた。この主人は今度はスイスに移ったようである。リンデン通りの裏家の二階に「Friedemann」という古版地図、稀書、版画、筆蹟など商う店があり、これも日本人に知己が多い。

ライプチツヒは名に負う書物町、ここには書籍博物館がある。同様なもの为我国にもあったならば、書物に関する知識を普及するに便利であろう。Gustav Fockは家構えも大きく、地下室の書庫なども手広なものであった。此市には神保町の様に軒を並べた古本屋通りもあり、店先きに立っているブック・ウォームも見掛ける。然し本屋の性質も違うであろうが、流石に大都市の繁栄は、ロンドンのチャーリング・クロス町やパリのセイヌ河岸などの古本屋に群集する人影に反映すると思うを避けられない。ロンドン・ピカデイリの一角に在るSothebyは以前はストランド町にも店があつたが、大戦頃からピカデイリ一軒に纏めたようである。此店からは毎度くわしい解題つきの目録を発行している。二階の陳列室で探れば又掘出物がある。二階の一隅に博識な番頭がいた、此人などが解題など書いているのかと思われたが、又四、五年前から同店発行のPicadilly Notesと題するカタログがある。毎巻頭にJ・H・S・なる名で、「売書奇談」というようなものを書いている老（？）番頭がある。最近の分が大戦当時の思出が載せてあつた。「宣戦布告の次の日曜に郊外行きのバスを求めにブロードウエーへ出て見たが一台もなかった。運転手が凡てフランスへ渡つたのであつた。多数のベルギー避難民が某離宮に収容せられ、その辺、婦人小児が街頭を右往左往し、子供たちは腕一杯に、慰問に貰ったおもちゃを抱えているのなどが目についた。然し商店一般に“business as usual”という気分が漲っていたが、次の月曜に、主人に今後の店の方針について相談したところ、主人の意見では、是から

は稀書高価本類の商売は全然なくなる、全力を時局物の廉価通俗本に注ぐべきであるということで、飾窓に古本を並べることさえ已めてしまった。所が、戦争の初の頃、或る有名な將軍から、息子の結婚祝にとあつて、奈^{ナボレオン} 翁格言集の美本のをという注文があつた。丁度店に二部その持合せがあり、一は犢革^{こうし}の製本で値段も普通であつた。他はモロッコ革の製本で、表紙に小奈^{ナボレオン} 翁の小照があり、このノーツ何々頁にその製本の写真がある。そのとき主人は戦時中にこんな高価本は売るべきでないと大に憤慨したが、本も戻つて来、庫へ返して置いた」などと書いてあるが、その高価本は時価三十磅^{ポンド}。即ち巧妙に其本の広告をしているようなものであるが、このノーツは云わば贅沢本の広告であるから、その用紙も特別注文だと吹聴してある。解題つき古本目録には、「アメリカの顧客へ急告」という貼紙があり、此目録は米國へは英國及歐大陸へよりも三週間前に発送したと記してある。東亜地方へも之に準じてあるのであろう。我國でも東京又は大阪の古本店と他地方との聯絡に近来（？）此方法が用いられ、珍らしくもないが、熱心家が先駈^{さきがけ}するには目録の発送前その校正刷を見せて貰うという手もあつた。私も三十年前ベルリンの一書肆^{しよし}で偶然数日後に本刷の筈の目録の校正刷を見せられて一書^{あがな}を購つたところ、本刷の目録を受取つた当日同書肆^{しよし}へかけつけた或る知人を失望させたことがあつたが、東京文求堂の唐本目録をいつも校正刷で取寄せている米國人があることを嘗て聞いたこともある。

ソゼランの解題つき目録最近の八五一号に、ギルバートのデ・マグネテ（電気磁氣に関する最初の科学書）一六〇〇年初版、著者の自署贈呈本代価二五〇磅^{ポンド}。ギルバートの筆蹟の確實なのは本書ばかりと数年来ソゼランの目録で繰返されているから、流石^{さすが}にまだ米國でもその顧客を見出し得ないと見える。此書の複製本は既記^{ベルリン}伯林のマイヤー・ミュラーで嘗て出版したのがあり、時価四五十マークの様である。此書（原ラテン文）

のS・P・トムソンの英訳があるが限定版であり、稀書に属している。ソゼラン同目録に尚一つニュートンのプリンキピア一六八六年初版の、Earl of Halifaxへの著者贈呈本がある。代価二五〇磅。同書一七一三年訂正再版本は漸く七磅位である。初版であり、贈呈先きがニュートンの友人であり、政治上の恩人等であること、又ニュートン自筆の書入れがあることなどが同書を貴くしているのである。ロンドンにはソゼランの外Quaritch等も古版地図、稀本、版画等を商っているが、この方面での雄はMaggs Bros.であろう。ソゼランもマッグスも宮廷御用の看板をかかっている。マッグスの店は書店よりは貴金属店か何かとも見えるように美々しく且つ大きい。店先きには贅沢な装釘本若干が硝子函の中に陳列してあったり、又鯨やローザ針盤など画いた十六七世紀頃の航海図等が額にして懸けてある位で、普通の書店がギッシリ新古の書物を並べているのと趣を異にする。ここで発行する目録はソゼラン以上に贅沢なものである。十年許り前同店の取扱う種目数十を並べ、どれどれに興味があるかの問合せがあつたが、返信用として日本の郵便切手を倫敦から封入して来た用意周到には感心した。

駒場の前田侯爵邸には頗る貴重なオートグラフ、即ち筆蹟、自筆書簡、マニユスクリプト数百のコレクションを蔵せられるが、殆ど皆マッグスより購われたとのこと、マッグスで特製した幾個かの帙に分類して収められてある。帝王武將政治家学者詩人芸術家發明家冒險家等、エリザベスあり彼得大帝ありルイ十四世ありクロンウエルありワシントンあり、奈翁あり、ビット、ヂスレリ、ビスマーク、ニュートン、カント、ヴォルテール、バイロン、シェレー、ゲーテ、シラー、モリエール等々、凡そ歐洲の十六世紀以降の政治史戦史學術史文学史等に特筆せられる名は殆ど凡て此中に網羅されているようである。流石にマッグスなればこそ是れだけのコレクションを提供し得たと思われる。前田侯はまたグーテンベルクの印刷、十七八世紀耶蘇會

士の書簡等をも蒐集せられたこと、人の知る所である。

ケンブリッジには Bowes and Bowes が本屋として三世紀半の伝統を有するそうである。今の建物も屋根の尖った古風なものである。二階には十八世紀数学書類の陳列室もあり、ケンブリッジ室には劍橋大学関係図書を陳列してあった。この店の古本係 G. J. Gray の名は同店出版の「ニュートン文献集」の編者として知られているが、同店の或広告に、その loyal and devoted staff 四、五人中の随一に数えてある。

パリの Paul Gauthier は東洋学関係の書肆である。主人はドイツ人とのことで、パリの本屋の中、書物の取扱が最も科学的だと既記ヘラスベルクの主人の説であった。店は古い建物の中、薄暗い階段を上った所に在った。ソルボンヌ前の Vieil 書店でフランス学術の一特色、科学史及び科学哲学の書物を求めていたとき、話しかけた人があった。番頭かと思つたところ、社会哲学の Koyre 博士と名乗られ恐縮したが、嘗て京都大学の招聘を受け、偶ま家に病人があつて断つたということなど述べられ、科学哲学には自分も興味を有し、最近ドイツの Phil. Anzeiger に之に関し論文を寄せたと云われ、又エミール・メイエルソン訪問を勧められ余も氏の紹介でメイエルソン翁に面会を得た。是こそ余の歐洲古本屋に於ける最も貴重な思出である。ミッソの Toscanini、フィレンツェ、ローマのオルシユキ、ウィーンの Kraus、バーゼルの Oppermann、改め Braus-Riegenbach、アムステルダムは何々など、旅次に瞥見、夫々その土地の文化の伝統を負うて争われない。例えばバーゼルではオイラーやベルヌーイに関するものは他所にないものが求め得られるというようなことである。

爾来はカタログを見て高価本など髣髴するばかりであるが、Gauthier だかの目録の表紙には「こういう目録の印刷代並に郵税は吾々にかなり負担であります。ですから、目録御受取の方々は時々御注文下さるようお願いいたします。でない、目録発送を中止しなければなりません」と印刷してある。尤もなことである。是は目

録を貫うものの道德かも知れない。

(昭和十二年八月、書物展望)

- 桑木或雄著『科学史考』（河出書房、昭和一九年）所収。
- 読みやすさのために、旧漢字は新漢字に、旧かなは新かなに変更し、適宜振り仮名をつけた。ただし、一部の漢字は旧漢字のままにした。
- PDF化には \LaTeX 2 ϵ でタイプセッティングを行い、`dvipdfmx`を使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、
「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。